

News Release

(別添)

2019年3月19日
NITE(ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所

春本番、自転車の思わぬ事故に注意！(九州・沖縄8県版)

～安全のために知っておきたいポイント～

春は進学や通勤など生活環境(又はライフサイクル)の変化で自転車に乗り始める方が増えます。全国的に4月から5月にかけて、自転車に関する製品事故が一年のうち最も多く発生しています。発生状況を年代別に分けると、10代の事故が最も多く、次いで30代の事故が多く見られます。通学や通勤などで自転車を使用する機会が増えるにつれ、手軽で便利な自転車の思わぬ事故が発生しています。安全に自転車を使用するには、点検や整備など使用上留意すべきポイントがあるため、自転車の使用に関する注意喚起を行います。

2013年度から2017年度の5年間にNITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※1}では、自転車^{※2}の事故は九州・沖縄8県で20件^{※3}ありました。自転車の事故は人的被害(重傷、軽傷)に至る場合が多く、九州・沖縄8県では20件のうち、16件(80%)を占めています。これは全国での負傷率73%を上回っています。

自転車は手軽で便利な乗り物ですが、油断や慣れによる誤った使い方は大きな事故につながります。乗車前の点検や購入してから1カ月での初期点検など、自転車の状況を常に確認し、使い方に注意して事故を未然に防ぎましょう。

また、リコール製品による事故も発生しているため、リコール情報を確認してください。

■ 事故を防ぐためのポイント

- 路上の木の枝やごみ袋などは車輪に巻き込まれるおそれがあるため、注意して走行する。また、ハンドルに買い物袋や傘などをぶら下げない。
 - 自転車に乗車する前に、チェーンのたるみ、車輪やペダルの取り付けなどを確認する。スポーツ車などは車輪を速やかに脱着してタイヤ交換を容易にする機構(クイックリリース)を搭載しているため、使用前には取扱説明書や販売店からの注意事項を必ず確認する。
 - 電動アシスト自転車のバッテリーが製造時の異物混入等の原因で、充電時に異常発熱して発火するなどリコール対象となっている製品があるため、お手持ちの製品がリコール対象製品かどうか確認する。
- ### ■ 安全のためのポイント
- 乗車前に自転車に不備がない確認することを習慣にする。
 - 自転車整備士(自転車技士、自転車安全整備士)のいる店舗^{※4}において、購入後1カ月を目安にネジのがたつき・ワイヤーの伸びなどがないかの初期点検や、新車以外においても定期点検を受ける。
 - 電柱やフェンスなどに衝突するなど外から大きな衝撃を受けた場合は、そのまま乗車せず、自転車を購入した店舗などで異常がないか点検を受ける。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) 自転車には自転車用幼児座席を含む。自転車の本資料における区分については、全国版プレスリリース2ページ目を参照。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※4) 自転車安全整備士の店舗はインターネットで検索できます。(参考 URL: <https://www.tmt.or.jp/safety/index1.html>)

1. 事故の発生状況

(1) 九州・沖縄8県における自転車の事故 年度別 種類別 事故発生件数

図1に九州・沖縄8県における自転車の事故「年度別 種類別 事故発生件数」を示します。自転車の事故は、2013年度から2017年度までの5年間で計20件発生しています。

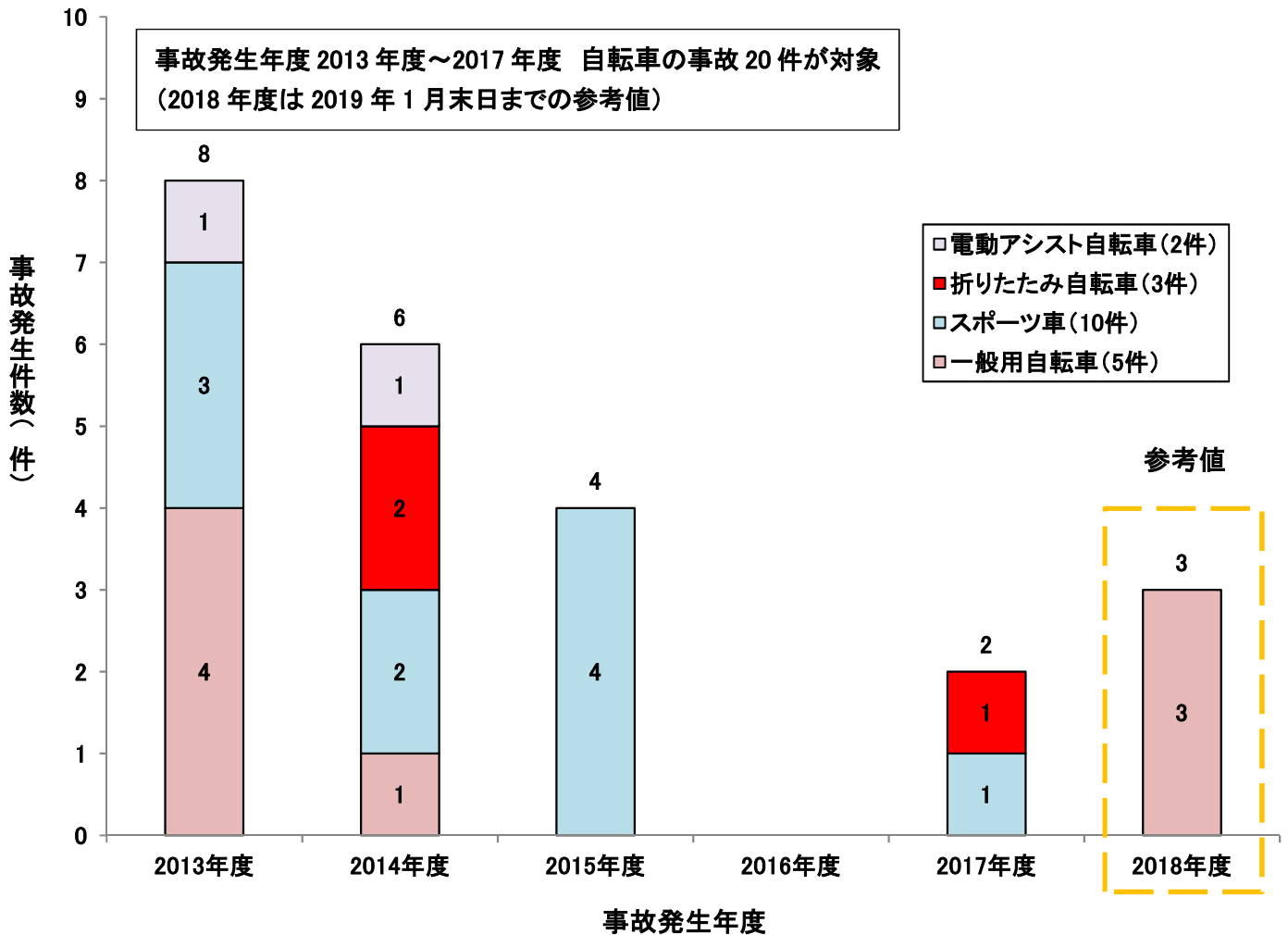


図1:九州・沖縄8県における自転車の事故 年度別 種類別 事故発生件数

(2) 九州・沖縄8県における自転車の事故 事故原因区分別 事故発生件数

九州・沖縄8県における自転車の事故20件について、図2に「事故原因区分別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分(全国版プレスリリース別紙1参照)に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故(事故原因区分 A、G3) 3件(15%)
- 製品に起因しない事故(事故原因区分 D、F) 5件(25%)
- 原因不明のもの(事故原因区分 G3を除くG) 10件(50%)
- 調査中のもの(事故原因区分 H) 2件(10%)

となっています。

製品に起因する事故は3件(15%)発生しています。このうちリコール対象製品による事故は1件で、「ペダル軸への固定ナット取り付け忘れにより、踏み込んだ際にペダルがはずれて転倒した事故」です。

一方、製品に起因しない事故は5件(25%)発生しており、「異物を巻き込んだため、前ホークが破断し転倒した事故」や「段差通過時にバランスを崩して転倒した事故」などが発生しています。

事故発生年度 2013 年度～2017 年度 自転車の事故 20 件が対象

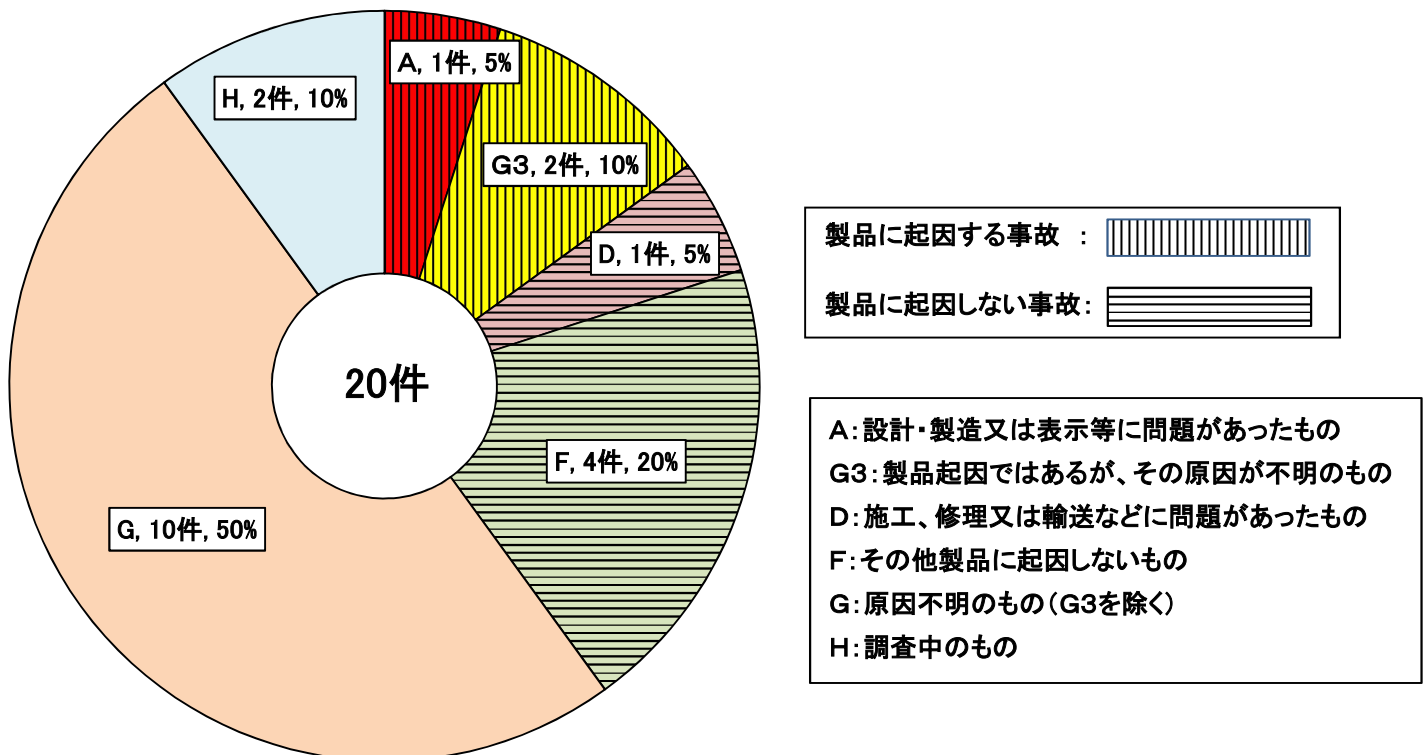


図2:九州・沖縄8県における自転車の事故 事故原因区分別 事故発生件数

(3) 九州・沖縄8県における自転車の事故 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数

表1に九州・沖縄8県における自転車の事故の「原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を、次ページ表2に「事故原因区分別 重傷事故の発生件数」を示します。

2013年度から2017年度の5年間に、9名が重傷を負っています。

自転車の事故はけがを負う場合が多く、20件中16件(80%)が重傷又は軽傷を負っています。

なお、重傷を負った人の数は製品に起因しない事故で5名、製品する事故で1名となっています。

表1:九州・沖縄8県における自転車の事故 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数^{※5}

被害状況		人的被害		物的被害		被害なし	合計
		重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A:設計、製造又は表示に問題があったもの		1 (1)				1 (1) [0]
	G3:製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	1 (1)		1 [1]			2 (1) [1]
	小計	1 (1) [0]	1 (1) [0]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	3 (2) [1]
	事故件数 被害者数 火災件数	1 (1) [0]	1 (1) [0]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	3 (2) [1]
製品に起因しない事故	D:施工、修理又は輸送等に問題があったもの	1 (1)					1 (1) [0]
	F:その他製品に起因しないもの	4 (4)					4 (4) [0]
	小計	5 (5) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	5 (5) [0]
	事故件数 被害者数 火災件数	5 (5) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	5 (5) [0]
G:原因不明のもの(G3を除く)		2 (2) [0]	6 (6) [0]	0 (0) [0]	2 (0) [0]	0 (0) [0]	10 (8) [0]
H:調査中のもの		1 (1) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	1 (0) [0]	0 (0) [0]	2 (1) [0]
合計		9 (9) [0]	7 (7) [0]	1 (0) [1]	3 (0) [0]	0 (0) [0]	20 (16) [1]
事故件数 被害者数 火災件数		9 (9) [0]	7 (7) [0]	1 (0) [1]	3 (0) [0]	0 (0) [0]	20 (16) [1]

(※5) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害にはカウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表2:九州・沖縄8県における自転車の事故 事故原因区分別 **重傷**事故発生時の事象

重傷事故発生時の事象	製品に起因する事故	製品に起因しない事故	G	H	計
フレームの変形・破損など	1	2	1		4
バランスを崩し転倒		2			2
ブレーキに不具合		1			1
チェーンの外れや破損			1		1
車輪の外れや破損				1	1
総計	1	5	2	1	9

(4) 九州・沖縄8県における自転車の事故 製品別 被害状況の割合

図3に九州・沖縄8県における自転車の事故の「製品別 被害状況の割合」を、次ページ表3に「発生別 事故発生時の事象」を示します。

重傷と軽傷を併せた受傷の割合は一般用自転車が100%、スポーツ車が90%と非常に高くなっています。このうち、スポーツ車はフレームの変形・破損が5件と最も多く発生しています。(表3参照)

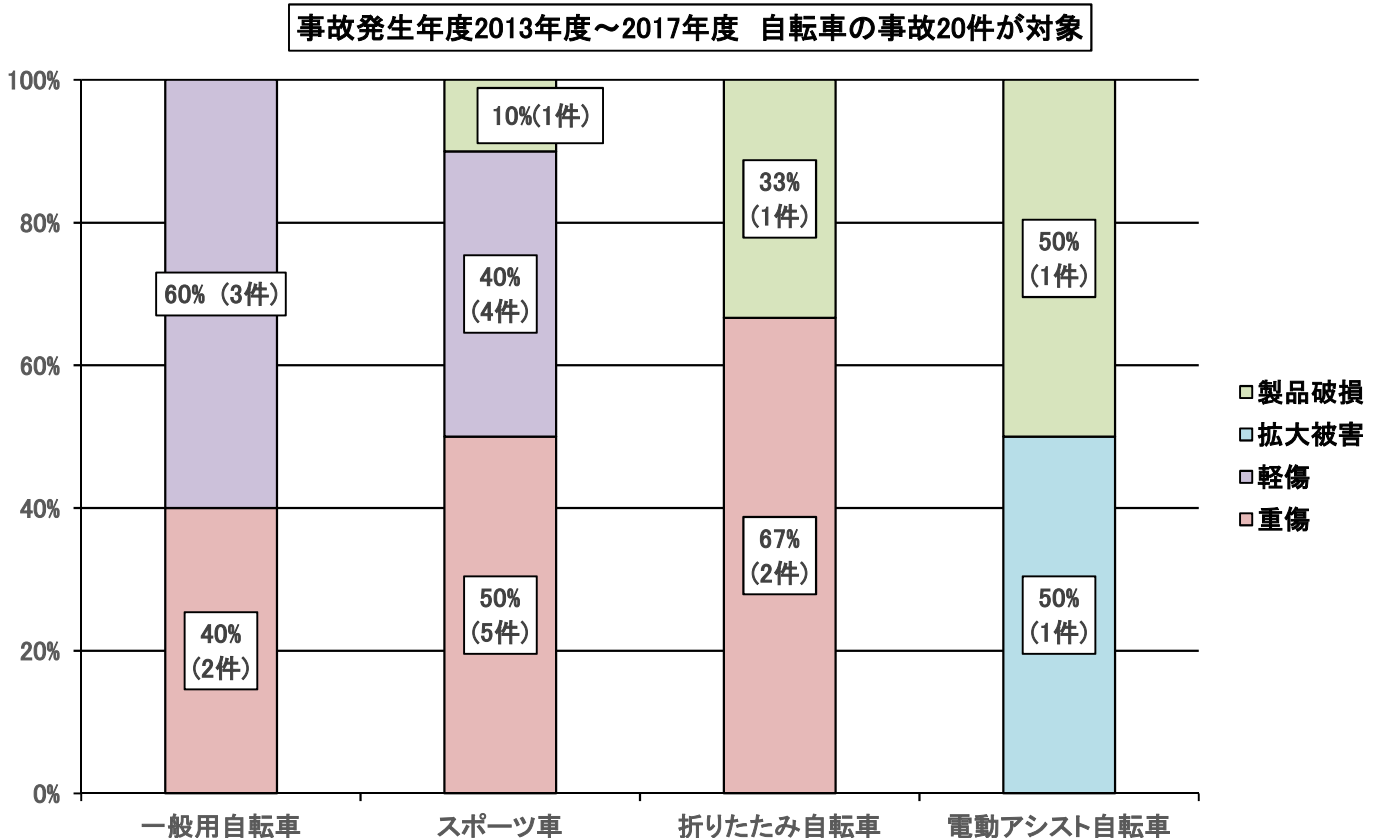


図3:九州・沖縄8県における自転車の事故 製品別 被害状況の割合

表3:九州・沖縄8県における自転車の事故 製品別 事故発生時の事象

事故発生時の事象	一般用自転車	スポーツ車	折りたたみ自転車	電動アシスト自転車	総計
フレームの変形・破損など		5	1		6
ペダルの空転・脱落・破損など	1	1	1		3
ハンドルの空転・脱落・破損など	1			1	2
バランスを崩し転倒	1		1		2
車輪の外れや破損		2			2
前輪がロック	1				1
チェーンの外れや破損	1				1
その他の部品の脱落・破損など		1			1
ブレーキに不具合		1			1
バッテリーの脱落や発火				1	1
総計	5	10	3	2	20

(5) 近年の動向

九州・沖縄8県における自転車の、2008年度から2012年度までの5年間の事故発生件数と2013年度から2017年度までの5年間の事故発生件数を比較すると、近年は一般用自転車の事故の割合が減少し、スポーツ車及び電動アシスト自転車の事故の割合が増加しています。(表4参照)

同様の期間で事故の被害状況の割合を比較すると、大きな差異は認められませんでした。(表5参照)

表4:九州・沖縄8県における自転車の事故 各5年間の製品別事故発生件数

製品別	2008年度-2012年度	2013年度-2017年度
一般用自転車	16件(50%)	5件(25%)
スポーツ車	9件(28%)	10件(50%)
折りたたみ自転車	5件(16%)	3件(15%)
電動アシスト自転車	2件(6%)	2件(10%)
総計	32件	20件

表5:九州・沖縄8県における自転車の事故 各5年間の被害状況別事故発生件数

被害状況別	2008年度-2012年度	2013年度-2017年度
死亡	0件(0%)	0件(0%)
重傷	11件(34%)	9件(45%)
軽傷	14件(44%)	7件(35%)
拡大被害	1件(3%)	1件(5%)
製品破損	5件(16%)	3件(15%)
被害なし	1件(3%)	0件(0%)
総計	32件	20件

(6) 九州・沖縄8県における自転車の事故 月別事故発生件数及び年代別事故発生件数

図4に九州・沖縄8県における自転車の事故「月別 製品別 事故発生件数」を、次ページ図5・6に「年代別 被害状況別 事故発生件数」及び「月別 年代別 事故発生件数」を示します。

10代の事故が多く、理由として春から通学に自転車を使用し始める人が多いことが考えられます。

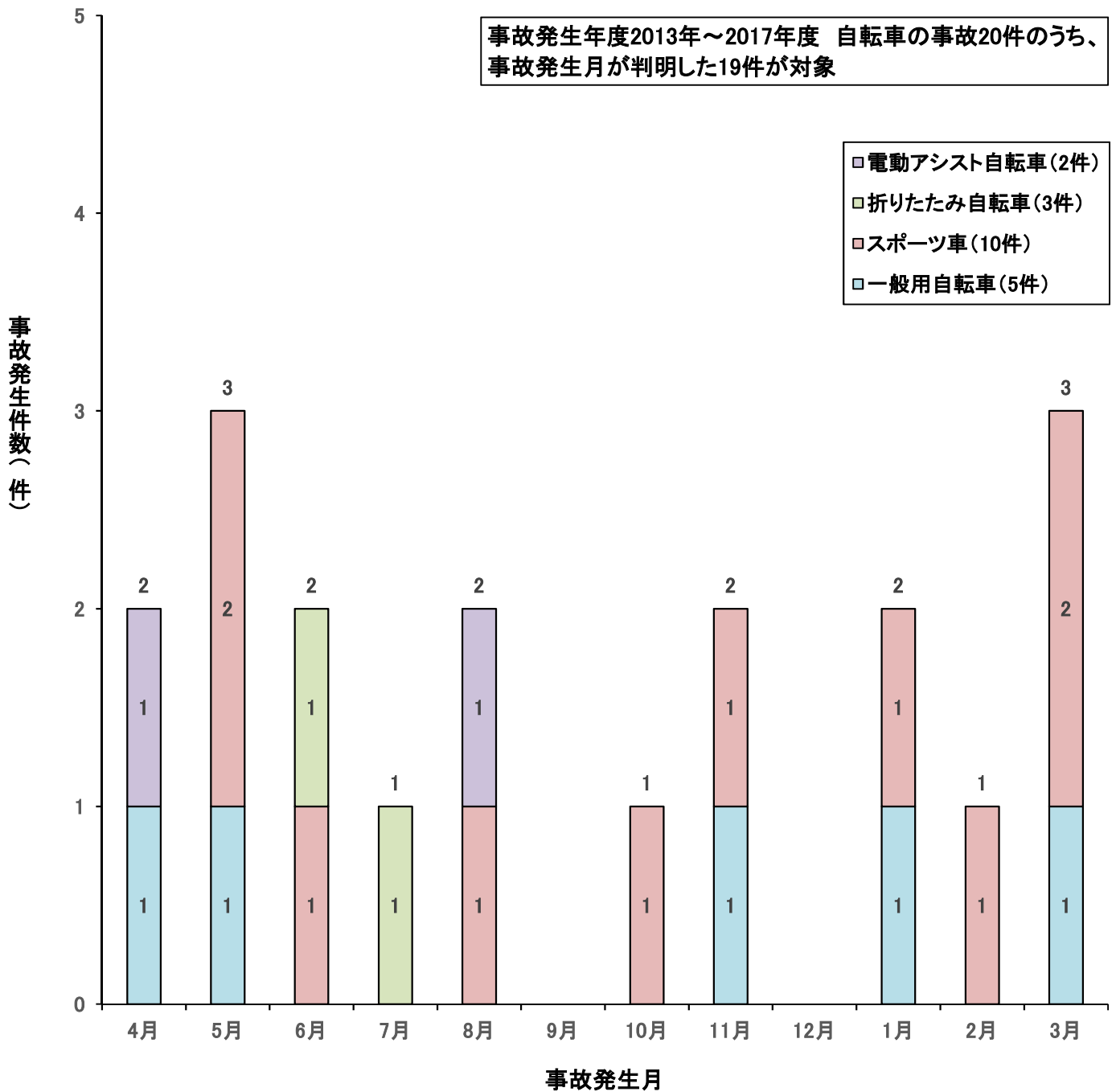


図4:九州・沖縄8県における自転車の事故 月別 製品別 事故発生件数

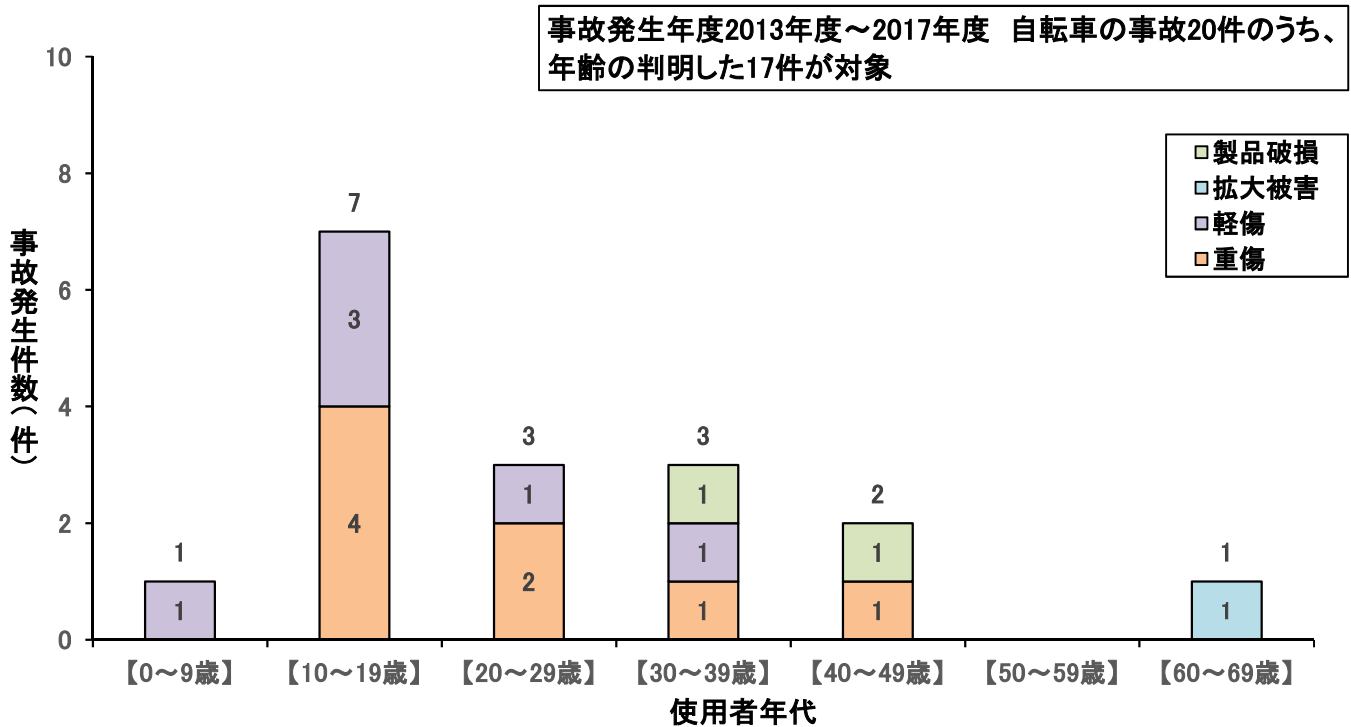


図5:九州・沖縄8県における自転車の事故 年代別 被害状況別 事故発生件数

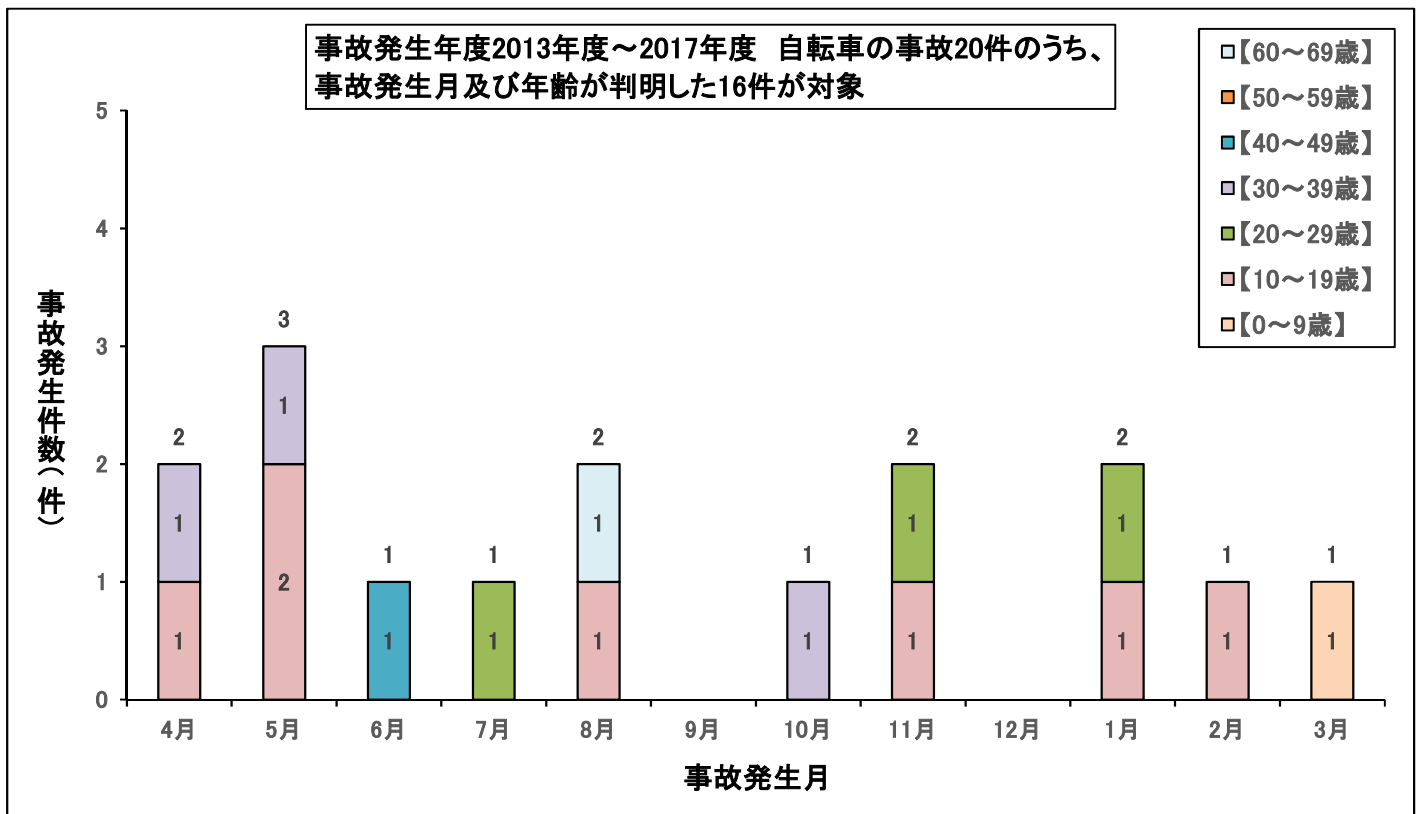


図6:九州・沖縄8県における自転車の事故 月別 年代別 事故発生件数

(7) 九州・沖縄8県における自転車 事故の使用期間別 製品別 事故発生件数

図7に九州・沖縄8県における自転車の事故「使用期間別 製品別 事故発生件数」を示します。使用期間の判明した17件のうち、使い始めてから1～2年以内に発生した事故が多く、7件(41%)発生しています。特に、一般用自転車の事故は、5件中3件(60%)が使用期間1年以内のものです。また、表6に使用期間1年以内の事故について内訳(累計)を示します。7件の事故のうち、使用期間2カ月以内に4件(57%)発生しており、使い始めは最も注意してください。

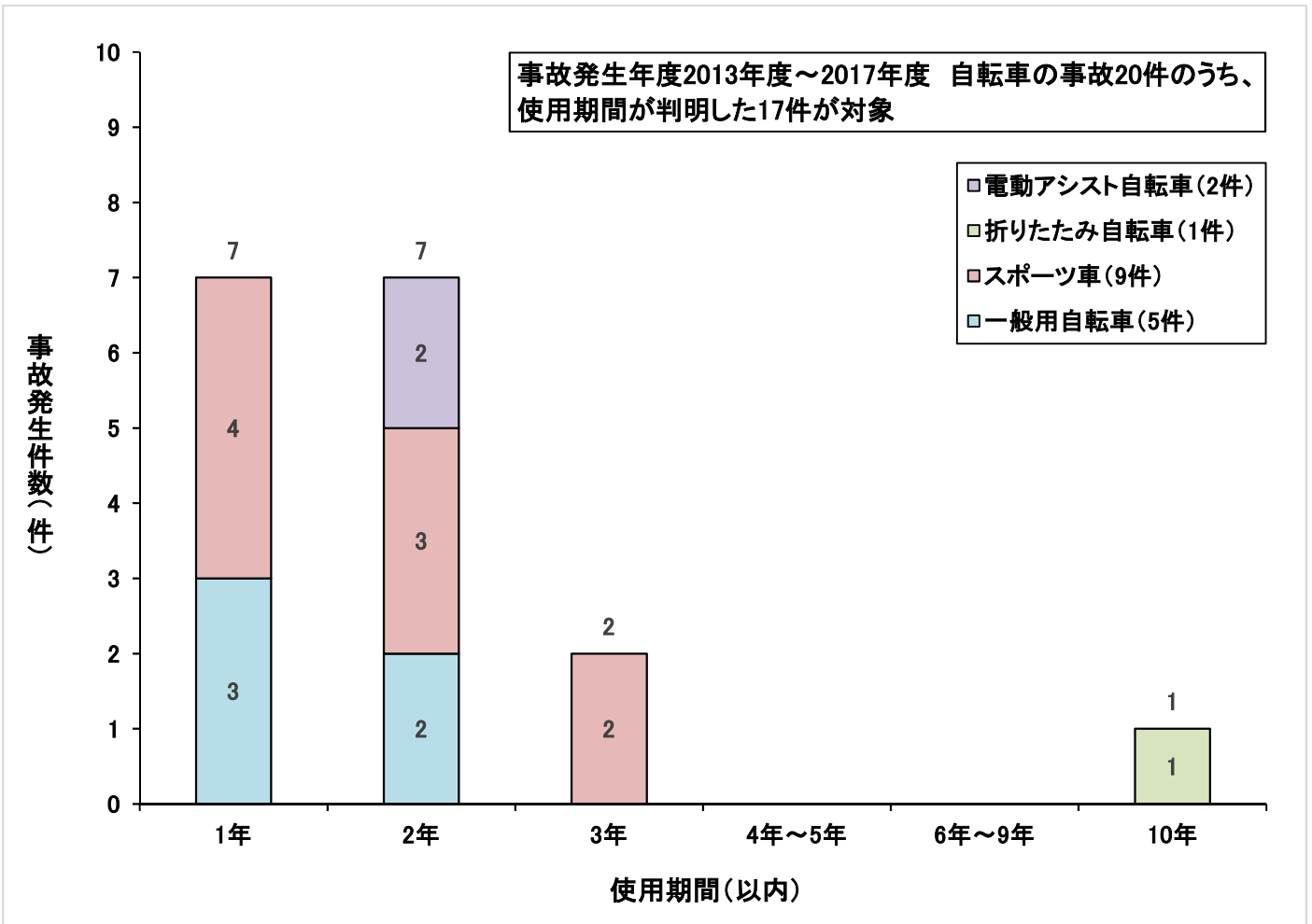


図7:九州・沖縄8県における自転車の事故 使用期間別 製品別 事故発生件数

表6:九州・沖縄8県における自転車の事故 使用期間1年以内の事故発生件数 (使用開始から各期間までの累計)

使用期間(以内)	累計(件)
1週間	1
1カ月	2
2カ月	4
半年	7
1年	7

2. 自転車の事故事例

九州・沖縄8県における自転車の事故事例を示します。

(イ) 走行中に車輪がロックして転倒し、けがを負った(前輪がロック)

2013年4月(熊本県、10歳代、女性、軽傷) 使用期間 約1年1カ月

【事故内容】

子供が自転車でゆるやかな下り坂を走行中に突然前輪がロックし、転倒して擦過傷を負った。

【事故原因】

走行中に前輪に異物を巻き込んだため前輪がロックして事故に至ったと考えられる。

(ロ) 走行中に車輪が外れて転倒し、けがを負った(車輪の外れや破損)

2013年6月(福岡県、年齢不明、男性、軽傷) 使用期間 約半年

【事故内容】

自転車で走行中、操作不能となって転倒し、軽傷を負った。

【事故原因】

クイックリリースの締め付けが緩んでいたため、走行中に緩みが進んで操作不能となり、さらに前輪が外れたものと考えられる。

(ハ) 走行中にハンドルが動かなくなり、転倒してけがを負った(ハンドルの空転・脱落・破損など)

2013年11月(大分県、10歳代、男性、軽傷) 使用期間 約5カ月

【事故内容】

自転車で走行中、ハンドルがロックして転倒し、軽傷を負った。

【事故原因】

走行中に前輪と泥よけとの間に異物が入って泥よけを押し上げて変形したため、泥よけがフレームと干渉してハンドルがロックされ転倒したものと考えられる。

(ニ) 走行中にチェーンが外れて転倒し、けがを負った(チェーンの外れや破損)

2013年5月(福岡県、10歳代、女性、重傷) 使用期間 約1年1カ月

【事故内容】

自転車で走行中、チェーンが外れて転倒し、負傷した。

【事故原因】

自転車の一番小さいギヤが破損していたためギヤの締め付けが緩くなり、ギヤのガタツキを生じてチェーンが外れ転倒に至ったものと考えられる。

(ホ) 走行中に前ホークが変形・破損して転倒し、けがを負った(フレームの変形・破損など)

2014年11月(佐賀県、20歳代、男性、重傷) 使用期間 不明

【事故内容】

自転車で走行中、前ホークが破断し、転倒、負傷した。

【事故原因】

自転車で走行中に前輪に異物が巻き込まれ、その異物が前輪の回転方向に沿って回転し、前ホーク部と接触して、両前ホークが破断し、転倒したものと考えられる。

(ヘ) 充電後の電動アシスト自転車用バッテリーが発火し、周辺を焼損する火災が発生した。

(バッテリーの発火)

2014年8月(熊本県、60歳代、女性、拡大被害) 使用期間 約1年4カ月、リコール対象製品

【事故内容】

バッテリーを充電後、バッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故原因】

バッテリーはバッテリーセルの内部短絡により、異常発熱して出火に至ったものと考えられる。

なお、製造事業者は、2014年12月にホームページに情報を掲載し、対象バッテリーについて無償で製品交換を実施している。

3. 自転車の事故の実験映像の提供

自転車の事故の実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+nite ロゴ」としてください。

※nite ロゴ



(本件に関する問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 製品安全技術課
担当者 池谷、篠崎

電話: 092-551-1315、FAX: 092-551-1329
[e-mail:iketani-akio@nite.go.jp](mailto:iketani-akio@nite.go.jp)
[e-mail:shinozaki-kenzo@nite.go.jp](mailto:shinozaki-kenzo@nite.go.jp)

以 上